



第1期生の本江紗羅さんを迎えました。本江さんは町内に下宿しながら、学校や地域の人たちとふれあい、留学先として選んだ大槌町のことを学びました。地域の人の協力も得て、大好きだと語る三陸鉄道の模型に親しむイベントを開催。吉里吉里公民館で行われたイベントには、50人を超える人が来場しました。本江さんは「鉄道を知ってもらいたくて企画しました。準備や、チラシを配る時にも地域の人に協力してもらいま

はま留学と地域の関わり
生徒たちはこれまで、フィールドワークやマイプロジェクトの活動などで、町内各地の様々な人たちから話を聞いたり、テーマについて一緒に考えたりしてきました。地域の中で考えることで、自分たちの住む町を改めて見つめ直し、町の魅力を発見することへもつながっています。



自ら企画した三陸鉄道のイベントで子どもたちとふれあう

はま留学と地域の関わり
昨年度、町は全国から入学生を募集する「はま留学」をスタートし、第1期生の本江紗羅さんを迎えました。本江さんは町内に下宿しながら、学校や地域の人たちとふれあい、留学先として選んだ大槌町のことを学びました。地域の人の協力も得て、大好きだと語る三陸鉄道の模型に親しむイベントを開催。吉里吉里公民館で行われたイベントには、50人を超える人が来場しました。本江さんは「鉄道を知ってもらいたくて企画しました。準備や、チラシを配る時にも地域の人に協力してもらいま



特集×大槌高校だより

地域に学ぶ 地域も学ぶ

地域をフィールドに学ぶ

大槌高校では、「三陸みらい探究」の学習の中で、行政の事業や地域課題についてのフィールドワークを通じた調査や、興味関心がある事柄をテーマに、地域をフィールドに活動する「マイプロジェクト」などに取り組んでいます。これらの活動は、地域の課題や、自分が興味あるテーマについて地域の人たちに相談したり、地域活動に参加して実際に体験したりと、地域の皆さんの協力が欠かせないものとなっています。



子どもたちと一緒に楽しむ

中央公民館 吉里吉里分館 芳賀 博典 館長

はま留學生が大槌に興味を持っているところを見て、地元の子たちも刺激を受けていると思います。地域での学習に、公民館や自治会、消防団、地元業者など、たくさんの方が色々な形で協力していますが、苦勞は全くありません。昔から自分たちもしてもらってきた当たり前のことです。お茶っ子の会やゲームをしたり、フラダンスや手芸を一緒にやったり、子どもたちも楽しんでくれているし、地域も活性化していると思います。

昔は3世代交流の行事なども多くありました。教育だ、と難しく考えることなく、一緒に遊んで楽しもう、みんな嬉しませようというくらいで良いんだと思います。子どもは大人の姿をしっかり見えています。我々が地域のためにがんばる背中を見て、大人になったらやってもらったことをまた子どもたちに返す。そうして地域の力が続いていってくれば素晴らしいです。

一つの家に例えれば、ほとんどの家は子どもを中心に笑顔になっているでしょう。家も地域も同じこと。子どもが楽しかった、学んで良かったという思い出をみんなで作ってあげようと思えば、自然と良い地域、良い町になっていくんじゃないかと思っています。

生徒同士の刺激や気づきに
 はま留學では、今年度新たに2期生となる6名を迎え入れました。約3ヶ月の間に仲良くなった地元出身の生徒たちと、聞きたいことなどを話し合ってもらいました。地元の生徒は、留學生の下宿生活や、大槌町へ来ようと思った理由に興味津々。大槌町の気に入ったところの話や、下宿で自炊や誕生会をした話に聞き入っていました。逆に留學生には、町のいいところを紹介。「人が優しい」「郷土芸能が面白い」など魅力を語りました。話をすることで、地元出身で

子どもたちから地域も学ぶ
 高校生だけでなく、小学校や中学校の地域学習にも協力する吉里吉里分館の芳賀館長は「子どもたちを地域で育てる」ということが大切だと話します。「自分たちも町内会でキャ

も知らないことがたくさんあり、お互いに教え合う場面もありました。県外からの留學生らとの出会いは、大槌町を外から見る視点や、町の魅力を探す意識につながっていて、生徒たちの地域での学びに相乗効果を与えるきっかけとなっています。

ンプに行ったり、みんなで踊りを踊ったり、地域の大人たちに育ててもらってきたので当たり前と思ってる。一緒に楽しむ気持ちで、どうしたらいいかとみんなで考えている。それが地域の大人にとっても良いことだと思おう」と笑顔で語ってくれました。地域のつながりは、子どもたちを中心に強まり、子どもたちへむける愛情は、そのまま地域の愛情となっていきます。自分たちの地域で子どもたちと一緒に楽しむためにはどうするか。その先に、皆さんが地元を愛する答えがあります。

大槌高校生の活動などはこちらからご覧ください

大槌高校 HP



大槌高校 note



はま留學生に聞いてみる

はま留學生と地元出身の生徒で話しながら、留學生がやってみたい事などを聞きました。

①大槌に来た理由 ②3ヶ月の印象や楽しかったこと、お気に入りの場所 ③やってみたい、チャレンジしたいこと

磯焼け対策やサーフィンに興味



小林 葉七 さん

- ①他の地域にはない「はま研究会」の活動に興味があったから
- ②地域の人が優しく、高校内では学年関係なく仲良しなところ。方言の話をするのが楽しかった！
- ③地域で取り組んでいる磯焼け対策や、海の近くに住んでいるのでサーフィンをやってみたい！地域イベントやボランティアにも参加したい！

地域の人に郷土料理を教わりたい



栗原 花音 さん

- ①大槌は自分にとってゆかりのある場所で、都会とは違う自然豊かな地域で生活をしたかった
- ②驚いたことは小学生が熊よけの鈴を持って登下校していること。楽しかったことは、留學生の誕生日会
- ③料理を作ることが好きなので、地域の人から郷土料理を教わる会を企画したい！

マイプロジェクトで町にアートを



矢作 梨 さん

- ①大槌高校が独自で取り組んでいる「復興研究会」に入って、復興の力になりたかったから
- ②夜の星ががすごくきれい！
- ③マイプロジェクトで町にアートを増やしたい！

地域イベントにたくさん参加したい



山田 朗 さん

- ①大槌町の環境（下宿生活や人）に惹かれたから
- ②楽しかったことは吉里吉里国で新割体験をしたこと
- ③地域イベントにたくさん参加してみたい！

海のことや林業を学びたい



今関 光汰 さん

- ①大槌高校が海を舞台に取り組んでいる「はま研究会」に参加して、海のことを学びたかったから
- ②好きなスポットはよく釣りをしに行く吉里吉里のフィッシャリーナ
- ③林業見学をしてみたい！

70センチオーバーの魚を釣りたい



藤本 峰己 さん

- ①趣味が釣りで海が近くにある環境がよかった
- ②登校中や散歩をしている時、知らない人でも挨拶してくれる
- ③吉里吉里海岸で70cmオーバーの魚を釣ること！